

記者発表資料

平成29年9月29日（金）  
宮城県多賀城跡調査研究所研究班  
担 当 生田和宏・高橋 透  
電 話 022-368-0102  
現場携帯電話 090-3642-0324

多賀城跡第91次発掘調査現地説明会開催について

当研究所の調査研究活動につきましては、日頃から御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。当研究所では、平成29年度事業として、5月22日より多賀城跡第91次発掘調査を実施しております。この程その成果がまとまり、10月7日の一般公開に先立ち、下記の通り報道機関に公開発表を致しますのでお知らせします。

記

- 1 日 時 報道機関公開 平成29年10月5日（木）午前10時30分から  
一般公開 平成29年10月7日（土）午前10時30分から
- 2 会 場 多賀城市市川字田屋場地内 多賀城跡第91次発掘調査現場  
JR東北本線 国府多賀城駅より徒歩10分（別添地図参照）
- 3 説明者 宮城県多賀城跡調査研究所長 須田良平  
同 所 員 生田和宏 高橋 透
- 4 調査内容 別紙資料を参照ください。

## 多賀城跡第 91 次調査の成果について

### 調査の目的

特別史跡多賀城跡は奈良・平安時代の陸奥国府跡です(724年～11世紀頃)。宮城県多賀城跡調査研究所では、昭和44年以来、5ヵ年計画による発掘調査を計画的に実施し、その実態を解明する研究を進めています。外郭南門地区については、多賀城南門の建物復元とあわせ、多賀城南門跡から南に延びる南北大路についても復元的に整備することとしています。そこで今年度は、第91次調査として南門地区の南北大路跡の調査を実施しています。

南に隣接する県道泉-塩釜線建設に先立つ市川橋遺跡の調査によると、南北大路跡の道路幅は奈良時代(8世紀中葉～末頃)の約17～18mから、平安時代(8世紀末～10世紀後葉頃)の約24mへと変遷するとされています。

今回の調査は、南門跡が立地する丘陵とその南に広がる沖積地における南北大路の様相の違い等を確認するとともに、道路の規模・構造とその変遷を解明することを目的としています。

### 調査成果

#### 1. 南北大路跡を発見しました。

奈良・平安時代の南北大路跡の東側溝と路面を発見しました。側溝は素掘りで、奈良時代の東側溝は1回、平安時代の東側溝は4回以上の改修が行われていたようです。

#### 2. 南北大路跡の道路幅を推定できました。

南北大路跡の西側溝は沖積地部では、10世紀前葉以降の河川や流路に壊され残っていませんでしたが、この河川や流路の位置と過去の調査例から推定すると、道路幅は奈良時代で13～18m、平安時代で24～28mと考えられます。